

「PLD-C+BV療法」について

この治療法は、卵巣癌に対して行われる薬物療法です。PLD-C+BV療法はリポソーマルドキソルビシン(PLD)、カルボプラチン(CBDCA)、ベバシズマブ(BV)の3種類の抗がん剤が用いられます。

1. 投与方法

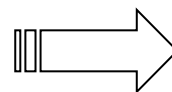
薬剤	効能または使用目的	投与時間
ベバシズマブ	抗がん剤	90分※
パロノセトロン+ デキサメタゾン	吐き気、アレルギー予防	15分
リポソーマルドキソルビシン	抗がん剤	90分
カルボプラチン	抗がん剤	60分
生理食塩液	点滴ルートの洗浄	5分

※ベバシズマブは2回目60分、3回目以降は30分で点滴することもあります。

2. スケジュール

PLD-C+BV療法は28日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日に抗がん剤を投与すると残りの27日間は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進んでいきます。

	1サイクル目		2サイクル目	
	1日目	2日目～28日目	1日目	2日目～28日目
投与日	○	—	○	—
休薬日	—	○	—	○



3. 特徴

●リポソーマルドキソルビシン: 赤い色をした注射薬です。

作用: がん細胞のDNAに入り込み抗がん作用を示します。

また、正常組織への移行性を抑え、その分がん細胞への移行性を良くした製剤です。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があったときはお知らせください。

点滴後1～2日間くらいで尿・汗などが赤色になることがあります。心配ありません。

心臓に疾患がある方や既往のある方はお知らせください。



●カルボプラチン

作用: がん細胞内のDNAと結合することで細胞分裂を止めて抗がん作用を示します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

●ベバシズマブ

作用: がん細胞への血管新生を抑制することで、酸素や栄養を届かなくする作用と、他の抗がん剤をがん細胞へ届きやすくする作用があります。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる(免疫反応)役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期: 抗がん剤を投与後14～21日目くらいに減少のピークを迎え、21～28日目くらいには回復します。

対策: 細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。**手洗い、うがい**を心がけましょう。

外出時はマスクを着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合はご連絡ください。



手足症候群(Hand-Foot Syndrome)

好発時期: 治療後数週間過ぎたころから手のひらや足の底に、しびれ、ヒリヒリ感、チクチク感、ほてり、赤くはれる、皮膚がガサガサする、爪が変形する、などの症状がみられることがあります。

対策: 異常を感じたら、その場所に強い刺激を与えないようにしてください。

長時間の歩行や立ち仕事などは避けて足底に負担がかからないようにしてください。

靴は足に合った負担の少ないものを選んでください。

保湿クリームをお使いになると症状が軽減されることがあります。

熱いお風呂やシャワーは避けてください。

炊事、洗濯などは手袋を着用するとよいでしょう。

異常を感じたら早めにご相談ください。

口内炎

口の中の粘膜が抗がん剤によって直接障害されてできる場合と、抵抗力の低下に伴う口腔内細菌の増殖によっておこる場合があります。症状は口腔内の違和感(舌で触れるとザラザラする、など)、疼痛、出血、冷温水痛、発赤・腫脹、などです。

好発時期: 抗がん剤投与後、数日～14日目くらいに発症しやすくなります。

対策: 次のような状態は口内炎が発症しやすくなります。

1. 口腔衛生状態の不良

虫歯、歯周病、舌苔が多い、義歯が合っていない、歯磨きやうがいができない(できていない)、など

2. 免疫能の低下

高齢者、ステロイドの使用、糖尿病、抗がん剤治療、など

3. 栄養状態の不良
4. 口腔付近の放射線治療
5. 喫煙

口腔内血流の低下、白血球・マクロファージの機能低下、歯石の形成などが原因と考えられる。

口内炎には予防が重要です！口の中を清潔に保ってください。

1. 食後の歯磨き

歯ブラシは柔らかいものを使用して不用意に傷を作らないように心がけてください。

2. うがい

歯磨き以外にも口の中が不快な場合(乾燥、違和感、口臭、など)はその都度行うことがよいでしょう。

生理食塩液や水でうがいしていただいても十分効果がありますが、マウスウォッシュを使用する場合は低刺激性のものを選択してください。

生理食塩液

食塩: 4. 5g ⇒ **小さじ(5cc)で約1杯**

水を加えて500ml 起きている間2~3時間毎にうがい

3. 禁煙

口内炎が出来てしまったら、刺激物や熱いものは避けてください。

水分は刺激を与えないよう、ストローを使うとよいでしょう。

必要に応じてお薬を処方しますので口内炎が出来てしまったらご相談ください。

水疱や、白苔ができた場合は早めにご連絡ください。

吐き気・嘔吐

好発時期: 治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、
症状が7日間程度続く方もいらっしゃいます。

対策: 抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。
考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分(水、スポーツドリンク、など)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。
便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。
部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。



食欲不振

好発時期: 点滴終了後から数日間で起きてくる場合があります。

治療が終了すれば回復してきます。

嗜好の変化や味を感じなくなる(甘味、塩味、苦味など)ことがあります。

対策: 食欲がない時には無理をせず、食べられるものを可能な範囲でバランスよく食べましょう。

口腔ケア(「**口内炎**」の項参照)によって味覚障害が予防できることがあります。清潔に保つよう心がけてください。洗淨液をお使いの時は低刺激性のものをお使いください(水だけでも効果はあります)。

注射時反応(Infusion reaction)

好発時期: PLD の注射によって起こる可能性のある症状です。

主な症状は、ほてり、胸部不快感、発熱・悪寒(さむけ)、吐き気、息切れ、などです。

予防として PLD の投与前にステロイドを投与し、PLD の投与をゆっくりと行います。

異常を感じたらスタッフにお知らせください。

2回目以降は起こりにくくなるのが特徴です。

高血圧症

好発時期: 投与開始後4ヶ月以内の発症が多いようです。

対策: **自宅での定期的な血圧測定をお願いします。**

めまい、ふらつき、がまんできない頭痛と吐き気、けいれん、などの症状が出た場合はご連絡ください。

安静時にくり返しの測定をしても最大血圧が180mmHg または最小血圧が120mmHg を超える場合もご連絡ください。

出血傾向

好発時期: 投与初期に多い傾向がありますが、治療期間を通して可能性があります。

対策: **粘膜からの出血が多いようです**(鼻血、歯ぐきなど)が、通常は軽く、自然にまたは圧迫することで止まります。(もし、10~15分位しても止まらない場合はご連絡ください)

傷口が治りにくくなる場合がありますので怪我などには注意してください。

口から血を吐いたり、下血などが見られた場合は早めにご連絡ください。



脱毛

好発時期: 2~3週間過ぎた頃から起こりやすくなります。ただし、治療終了後2~3ヶ月で回復し始めます。

対策: 症状が現れたら、回復まではスカーフ、かつらなどを着用していただくとよいでしょう。

外出時は直射日光を避けていただくため帽子をかぶるとよいでしょう。

頭皮を清潔に保っていただくことをお勧めします。ただし、刺激の強いシャンプー等は避けてください。



皮膚や爪への影響

主に手足の皮膚にしみ(色素沈着)ができたり、爪が黒っぽくなることがあります。

対策: 一時的な場合が多く、注射が終了すれば次第に回復してきます。

外出時は直射日光を避けてください。



心機能低下

心機能が低下すると疲れやすくなり、息切れ・息苦しさ(座椅子などに座っているときのほうが横になっているより楽な状態など)、手足のむくみ、などの症状が出てきます。

重篤になると心不全を起こすことがあるため注意が必要です。

好発時期: 治療が進むにつれて起きやすくなっていきます。

対策: 定期的に心臓の機能検査を行い評価します。

もともと循環器系の病気をお持ちの方は、正常な方より症状が出やすくなります。

上記のような自覚症状が現れた場合は早めにご相談ください。



間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低いですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ・呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対策: 初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。



アレルギー

好発時期: 点滴中または点滴後の比較的早い時点で現れることがあります。

自覚症状は、息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹がでる、汗がでる、などです。

対策: 異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう(漏出)ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れ、などで場合によっては血管に沿って症状が出てくることもあります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

好発時期: 点滴している間が最も多く、まれに帰宅数日後に症状が出てくる場合があります。

対策: 抗がん剤の種類によって対策が異なります。基本的には患部を温めたり、軟膏や注射による治療を行います。

※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表:TEL 028-626-5500